指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市泉社会福祉センター		
2 指定管理者	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会		
3 指定期間	令和4年4月1日~令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 7,637人(前年度比 一%)※施設の大規模改修工事により令和6年7月9日から再開 令和5年度 (施設の大規模改修工事のため休館) 令和4年度 17,591人(前年度比 135.6%)		
	《事業》 ・センター利用登録団体と地域福祉活動団体の市民活動の支援及び交流の促進 ・仙台市泉社会福祉センターの運営管理等		
	()は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用 25,752千円(17,449千円)		
	・ その他市が負担した費用 24,868千円 (199,009千円)		
5 収支の状況	《収入》		
	・ 使用料収入 0千円(0千円)		
	・ その他収入 87千円 (2千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 泉社会福祉センター・泉障害者福祉センター運営会議、利用者アンケート、利用者要望・意見 ・令和6年7月9日から令和7年3月31日まで利用者要望・意見箱を設置 ・運営委員会 年3回実施 ・利用者アンケート年1回実施		

	評価分野	5評価 (モニタリンクシートの結果によって評価) 	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の「基本方針」が確立されており、職員も理解している。大規模改修工事後の再開館に向け、運営管理上必要となる関係諸機関との連携を行った。 、短時間でも学べる手話教室や、親子で参加できる講座、一部講座の夜間開催を通じて、幅広い年代の利用者の増加を図るなど、施設の設置目的を達成できており、評価できる。	39/39
п	施設の運営管理 体制	指定管理業務協定書及び仕様書に基づいた運営管理業務を遂行し、関係法令を遵守した適切な施設運営がなされている。個人情報の保護や事故防止、災害発生時に対する体制について、マニュアルの整備や周知を徹底し、退庁時に書庫の施錠やクリアデスク等を徹底しており、評価できる。また、併設の障害者福祉センターや近隣施設を含めた地域一体での防災訓練等の取り組みにより、利用者の防災意識の向上を図っている点も評価できる。	25/25
Ш	施設・設備の維 持管理	適確に設備の維持管理を実施している。その他、植栽外構などの環境整備についても適切に 行われており、評価できる。また、利用者や入居団体等の理解と協力を得ながら、新・仙台市環境 行動計画に則した取り組みを積極的に行っている。	24/24
IV	サービスの質の 向上	6月末までの休館中の問い合わせへの対応や、運営再開後の利用に関する受付等問い合わせへの対応を行ったほか、法人HP上で随時情報を行い、再開を待っていた利用者への丁寧な対応を行った。 利用者等へアンケートを実施した結果抽出された課題については、利用団体の代表者等で構成される運営委員会で改善点等をまとめ、利用者へ公表するなど積極的なサービス向上に努めており、評価できる。また、地域住民や利用者のニーズに応じた各種講座の開催により、地域住民との良好な関係を継続して構築するとともに、地域福祉の拠点としての機能も果たしており、評価できる。さらに、近隣にある福祉施設とも定期的に連絡会を開催する等連携を密にしており、また、地域要望に基づくボランティアマッチング等の取り組みも進められている点が評価できる。	28/28
v	施設固有の基準	近隣中学校の職場研修の受け入れを行っているほか、地域住民や利用者のニーズに応じた各種講座を開催し、地域に根差した運営を行っている。また、近隣の福祉施設と定期連絡会を開催する等連携を密にしている。アンケート等により、利用者のニーズの吸い上げを行い、各種セミナー等を企画開催しており、評価できる。	10/10

三 評価総括

《指定管理者(社会福祉法人仙台市社会福祉協議会)による自己評価》

1地域福祉の拠点としての活動

地域福祉の中核を担う社会福祉センターとして、住民の多様な福祉ニーズに対応する支援活動を展開するとともに、地域で活動する利用登録団体との連携・支援にも積極的に取り組んだ。

利用登録団体に対しては、活動場所の提供や物品貸出、情報共有、活動助成の情報提供に加え、子ども食堂の共催や研修会・地域福祉活動団体交流会の開催を通じて団体間のネットワーク形成を促進し、地域に根差した支援活動の活性化を図った。 2地域住民の福祉意識の高揚と増進

地域福祉の推進において、地域住民一人ひとりの福祉への関心や理解を深めるとともに、地域で活動する利用登録団体に対しても福祉意識の向上を促すことを重要な役割と捉え、継続的に取り組んだ。

地域住民に対しては、地域福祉講座(SDGS)や手話講座、親子手話講座、点字講座などを通じて、福祉を身近に感じ、関心を高める機会を提供した。また、広報誌やSNSによる情報発信を通じて、日常生活の中で福祉を意識できる環境づくりにも力を入れた。 3地域福祉団体との連携

地域福祉団体とは、運営委員会や利用者アンケート、情報交換や意見交換の場を設け、地域の課題やニーズを共有しながら、支援活動の質と連携力の向上を図った。また、共同でのイベント開催や福祉教育の実施など、地域住民に対して福祉を「自分ごと」として捉えていただけるような取り組みにも連携して取り組んだ。こうした協働の積み重ねにより、地域福祉団体の主体的な活動を支援するとともに、地域内における福祉意識の醸成につなげた。

《施設設置者(仙台市)による評価》

令和6年7月まで、大規模改修工事の実施により休館していたが、休館中の管理業務を適切に実施し、再開館に向け、利用者への丁寧な説明や各種問合せに対応し、円滑な再開館に繋げ、評価できる。

また、点字・手話講座等の修了者を対象としたフォローアップにも力を入れており、地域福祉の担い手確保のための継続的・積極的な取り組みが評価できる。

併設施設である泉障害者福祉センターや仙台市社会福祉協議会泉区事務所のほか、隣接する「泉ふれあいの家」、 「泉ひまわりの家」、及び周辺の福祉施設等との連携を主導する形で、地域と一体となった施設運営を行っており、高く評価できる。

総合評価

C

四 その他特記事項 (上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

災害発生時に施設運営上支障が出ないよう、発電機の動作確認を自主点検として3ヶ月に1回確認することとし、災害発生時の対応強化を図っており、評価できる。

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局地域福祉部社会課